

# Newsletter

No. 32 December 31 2018

東京医科歯科大学ラテンアメリカ共同研究拠点

## チリに住んでみて

チリに赴任して4年が過ぎました。赴任当初は右も左も分からず、仕事も生活も手探りのような状態でしたが、色々な人に助けられ、また、自分自身でも色々な経験を積んでいくことで、今では、チリでの生活が我々の日常となり、全く特別なことではなくなりました。

日本とは異なる気候や風習、左ハンドル・右側通行といった日本と逆の交通ルールなど同様に、日本にはない不便さも日常となりました。その一つとして、「待たされる」ということに慣れてしまったような気がします。

チリでは、2-3週間の長期休暇が労働者の権利として認められています。そのため、特に、夏休み期間などでは、担当者がいないということで、長く待たされるのが頻繁にあります。

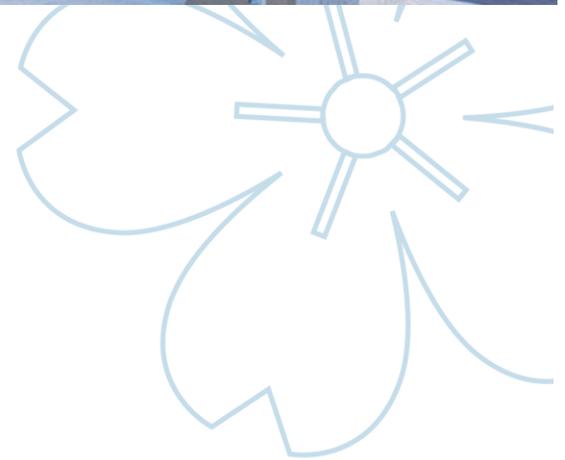
具体的には、郵便物がなかなか届かない、何かの手続きで連絡したが担当者が戻るまで進捗がない、医療の現場でいえば、病理等の検査結果のレポートがなかなか戻ってこない、検査や手術件数が通常時より減少する、などといったことが挙げられます。

日本のように、安定して同じサービスを提供できるということは素晴らしいことですが、その社会を維持するためには、個人に負担が強いられます。そして、その負担を社会のためと受け入れていると、「自分が無理したのだから、当然、相手にもそれを期待する」という考え方になってしまい、社会の不便さを許容できなくなるのではないかと思います。

便利な社会に越したことはありませんが、日本の社会が「ある程度の不便さ」を許容し、個人を尊重するようになったら、その許容が自分にもかえってきて、各自がゆとりを持った生活をする事が出来るのではないかと思います。

チリに住んでみて、日本より不便なことが多々ありますが、自分自身や家族を第一に考えるようになり、生活には日本では感じられなかったゆとりが持てるようになった気がします。

小田柿智之 消化器病態学分野



**LACRC** TMDU  
IN CHILE  
Latin American Collaborative Research Center  
Santiago de Chile



## Contents

|                   |   |
|-------------------|---|
| ご挨拶 .....         | 1 |
| JDプログラム .....     | 2 |
| PRENECの進捗状況 ..... | 3 |
| プロジェクトセメスター ..... | 4 |
| 活動報告 .....        | 5 |

# ジョイント・ディグリー・プログラム

ジョイント・ディグリー・プログラム(以下 JDP) では、12月から植竹宏之教授が責任者となり、加えて今後、指導教員とのコミュニケーションのサポートや学修相談を担う調整教員として新たに伊藤崇助教が選ばれました。

本号では、新たにJDPの調整教員としてメンバーに加わった伊藤助教からのお言葉を掲載しております。

## JDP調整教員

JDP調整教員 伊藤 崇 助教

この度、JDPにおける調整教員を拝命いたしました。私は2010年4月末から約2年間にわたり、本学からの初の長期赴任者としてLACRCに赴任しました。当時PRENECは準備段階にあり、チリ大学とのJDPについては具体的な構想すら無く、赴任中はLACRCにおける研究環境の整備、PRENECにて使用される病理診断プロトコルの作成、CLCでの病理診断業務への参加などが主な活動となりました。日本とは異なる環境での業務や生活に戸惑うことも多々ありましたが、赴任を通じて大いに見聞を広げることができました。

調整教員としては、チリ赴任の経験を生かし、大学院生がJDPを通じて国際的医療人としての経験を積めるよう、微力ながらも大学院生の生活・研究のサポートに当たればと考えております。



# PRENECの進捗状況

大腸癌早期診断プロジェクト(PRENEC)の最新情報をご報告いたします。

プンタ・アレナス、サンティアゴ、バルパライソ、バルディビア、オソルノ、コキンボの従来の6都市に加えて、コンセプションでPRENECが開始されました。しかしながら、バルパライソと、開始したばかりのコンセプションで、運営に関する問題が生じたため、現在、休止状態となっています。早期に問題が解決され、再開に向かうことが期待されます。国外パラグアイでは、PRENECのPilot studyが終了し、本格的な開始に向けて準備を進めています。

## オソルノにおける研究会

11月29日～12月1日、PRENECの拠点の一つであるオソルノにおいてPRENECに関する研究会が行われました。プロジェクト責任者のロペス医師、ポンセ看護師とともに小田柿助教が招聘されました。

この研究会では、PRENEC開始から1年が経過したオソルノのPRENECに係わるスタッフを対象に行われました。一年間の結果の発表とともに、運用および臨床の面で生じてきた問題を取り上げ、解決に向けた話し合いをしました。小田柿助教は、内視鏡治療に関する発表を行い、現地の医師との意見交換をしました。

2017年に小田柿助教の指導のもと大腸内視鏡検査の研修を受けた、オソルノの拠点でPRENEC業務に携わっているクルス医師も、本研究会で発表をしました。このように我々の指導を受けた医師が各拠点に戻り活躍することは望ましい形であり、今後もPRENEC業務に係わる医師の育成に力を注いでまいります。



左より小田柿助教、オソルノPRENEC責任者のカセレス医師、ロペス医師



左よりカセレス医師、クルス医師

# プロジェクトセメスター

10月31日、本学医学科4年次の学生を対象とした学生海外基礎医学実習(プロジェクトセメスター)で、6月よりチリ大学に派遣されていた2名の学生の最終発表会がチリ大学にて行われました。研究成果の発表だけでなく、チリの担当教官及び研究室スタッフからの質問にも英語で臨機応変に受け応えをし、担当教官等より高い評価を受けました。日本とは異なる環境で培った経験は、学生にとって将来の大きな糧となったでしょう。

## 最終発表会

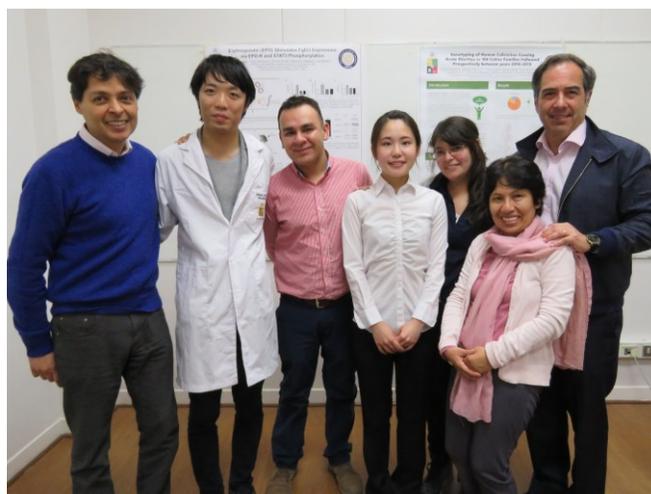
### 川上七海 チリ大学 感染症学研究室所属

9月ごろから急に時間の流れが早く感じるようになり、あっという間に帰国が迫ってきてしまいました。

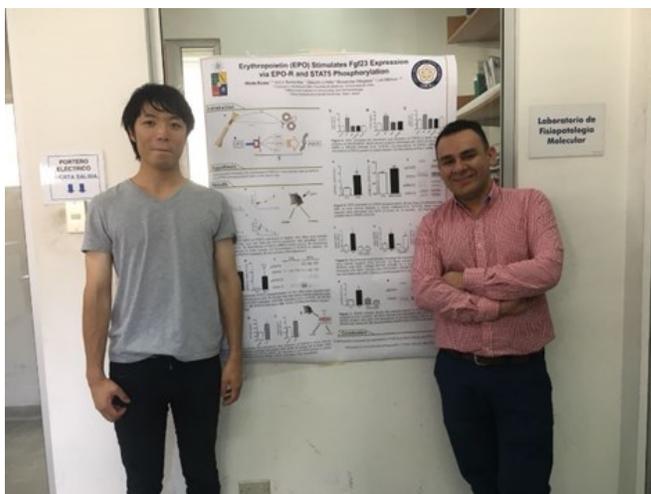
研究面ではノロウイルスのジェノタイプ分析の一連の作業を学び、RT-PCRやクローニングといった基本的な手技から結果の分析まで身につけることができました。研究経験が全く無い状態からのスタートで非常に不安でしたが、英語、スペイン語、時にはジェスチャーも交えつつ丁寧に説明していただけたおかげで理解しながら学ぶことができました。今回の研究の対象地域であるコロナという町にも連れて行っていただいて研究に協力してくださっている家族の方々との面接を見学し、自分が行っている研究がデータ上だけのことではないという実感を得られました。生活面ではスペイン語と英語でのコミュニケーションを取りつつこの機会が無ければ出会えなかったであろう友人たちと楽しい時間を過ごすことができました。温かく見守ってくださったオライアン先生、常に明るくかつ適切な指示や指摘でサポートしてくださった研究室の方々、今回の留学に関わるTMDU、チリ大学、LACRCスタッフの皆様のおかげで充実した5か月を過ごすことができました。本当にありがとうございました。

### 隈 宙音 チリ大学 腎臓病学研究室所属

こんにちは！チリ大学医学部腎臓病学研究室に派遣された医学科4年の隈宙音です。チリでの半年近い生活が終わったところです。初めての実家以外での暮らしや早すぎるチリのスペイン語など、はじめは不安だらけだったのですが、周りの方々が親切に助けて下さったおかげでなんとか過ごすことができました。一番大事な研究面でも努力した甲斐のある結果を出せてとても満足しています。スペイン語だけでのコミュニケーションもできるようになり、渡航前とはどこか自分自身が変わった気すらしています。今まで支えてくださった方々に改めて感謝申し上げます。



お世話になった担当教官や研究室のスタッフ



研究を支えてくれたバリエントス研究員との記念撮影

# LACRC活動報告

## 研究会における発表

10月26日、サンティアゴにおけるチリの癌研究グループGOCCHI (Grupo Oncológico Cooperativo Chileno de Investigación)の依頼を受けて小田柿助教がPRENECに関する発表を行いました。会場には公立・私立病院に所属するチリの癌研究に携わる医師等が参加し、現在、チリ各地で行われている大腸がん検診に高い関心が寄せられました。今後もこのような活動を通して、チリの医療に貢献できるように努めてまいります。



GOCCHI理事のミユラー 理事と記念撮影

**CURSO DE ACTUALIZACIÓN  
EN EL MANEJO MULTIDISCIPLINARIO  
DE TUMORES GASTROINTESTINALES**  
(4 módulos: Agosto / Septiembre / Octubre y Noviembre 2018)

**MÓDULO 1: Cánceres esofagogástricos y GIST**  
31 de agosto: 8:30 a 18.00 hrs. / 1 de septiembre: 9:00 a 13:00 hrs.  
Auditorio Dr. Salvador Allende Colegio Médico,  
Esmeralda 678, Santiago.

**TEMAS:**  
Epidemiología de los cánceres digestivos en Chile  
Etiopatología de los cánceres gástricos y esofágicos  
Tratamientos uni- y multimodales en cánceres gástricos y esofágicos  
Terapias de soporte  
Biología molecular y perspectivas futuras  
Impacto en salud pública de los cánceres esófago-gástricos  
Los tumores del estroma gastrointestinal (GIST): diagnóstico y tratamiento  
Casos clínicos

**EXPOSITORES:**

**Invitado Internacional:**  
Dr. Guillermo Méndez (Hospital de Gastroenterología Dr. Borino Udaondo, Buenos Aires, Argentina)

**Expositores Nacionales:**  
Dr. Carlos Rueda (Gastroenterólogo Oncólogo, Clínica Alemana de Santiago / Instituto Nacional del Cáncer)  
Dr. Daniela Barahona (Radióloga, Clínica Alemana de Santiago)  
Dr. Giancarlo Schiappacasse (Radiólogo, Clínica Alemana de Santiago)  
Dr. Luis Aguilera (Endoscopista, Instituto Nacional del Cáncer)  
Dr. Gonzalo Carrasco (Anatómopatólogo, Clínica Las Condes)  
Dr. Tomoyuki Odagaki (Endoscopista, Profesor Asistente en el Latin American Collaborative Research Center (LACRC), Tokyo Medical and Dental University (TMDU))  
Dr. Walter Medina (Cirujano Digestivo Oncólogo, Instituto Nacional del Cáncer)  
Dr. Thiare Olguin (Nutrióloga, Instituto Nacional del Cáncer)  
Dra. Claudia Acevedo (Psiquiatra, Instituto Nacional del Cáncer)  
Dra. Verónica López (Oncólogo de Radioterapia, Instituto Nacional del Cáncer)  
Dra. Bettina Müller (Oncóloga Médica, Instituto Nacional del Cáncer)  
Kin. Karla Collao (Instituto Nacional del Cáncer)  
Dra. Verónica Kramer (Especialista Cuidados Paliativos Oncológicos, Instituto Nacional del Cáncer)  
Dr. Francisco Flores (Oncólogo Médico, Instituto Nacional del Cáncer)  
Dr. Roberto Estay (Médico Internista, Colegio Médico)  
Dr. Alejandro Corvalán (Investigador Traslacional, Pontificia Universidad Católica de Chile)

研究会プログラム

## 編集後記

真夏の乾いたサンティアゴの街やモールのいたるところでクリスマスツリーが飾られる時期となりチリの師走となりました。

PRENEC開始から現在までに患者登録数は3万人を超え、またそれに関連して今年初めてチリ人医師によるPRENECに関する論文が発表されました。様々な問題を抱えながらも少しずつ安定が見え始めた年でもあります。またJDPでは日本人大学院生が初めてチリに滞在し、チリ大学とともに挑戦の年となりました。新たに迎える年はプロジェクトの更なる発展と飛躍が期待されます。来年も本Newsletterを通してLACRCの活動を報告してまいります。(早川美貴)

東京医科歯科大学ラテンアメリカ共同研究拠点  
Latin American Collaborative Research Center  
Newsletter No.32 December 2018

[発行日] 2018年12月31日

[制作] Latin American Collaborative Research Center  
Tokyo Medical & Dental University  
Clínica Las Condes  
Lo Fontecilla 441, Las Condes, Santiago, Chile  
Tel: (56-2) 2610 3780  
Email: LACRC-CHILE.adm@cmn.tmd.ac.jp